

東山区社協が進める 地域福祉の学区重点目標

1. 「担い手養成」(全11学区)

少子長寿化の進行が著しい東山区では、学区社協活動を企画・運営していく人材が各学区とも不足している現状が調査の時点で明らかになりました。

どうすれば活動の担い手になっていただけるのか議論し、「活動に参加しやすい工夫」「魅力ある活動に」「学校・福祉施設の協力」などの声のもと、区社協が「出前地域福祉講座」を通じて一緒に担い手づくりを進めていきます。



2. 「居場所づくり」(6学区)

坂道の多い学区があります。その学区の話題の一例ですが「高齢になり買い物に行くのも坂を下り、買い物をした重い荷物をもって坂道を上るのが大変」「道の途中で休憩できる場所があればいいね」という声から様々な地域の先行事例の学習も行いました。その結果「まちの縁側」(第3期東山地域福祉活動計画の推進目標)をつくっていきこうという声に繋がりました。



3. 「見守り・相談強化」(3学区)

高齢者だけでなく、障がい者、子育て中の世帯をはじめ、孤立する恐れのある住民や外出することが困難な住民に対して、身近な相談者になれるようにしていきたいという思いが強く感じられました。

上記1～3の重点目標を推進するには、学区社協、民生児童委員協議会、老人福祉員をはじめとした地域団体、地域包括支援センターなどの関係機関のネットワークが重要です。そして何よりも住民一人ひとりが、地域福祉活動の推進に関わっていただくことが重要です。皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

新しい居場所・見守りのあり方

新道学区社協では、住民が気軽に集える場、買い物のついでに立ち寄れる休憩場所として「まちの縁側」をつくっていく目標を立てました。最初の取組として、夏の暑い時間帯に自宅でエアコンも付けずに暑さを我慢して生活している住民の憩いの場として、“ヒンヤリ涼み処”を開設しました。自宅の節電にもなり、学区のエコ活動にもなります。この場所に高齢者をはじめ障がいのある方も自由に出入りすることができます。また、学区社協はじめ、民生児童委員や老人福祉委員、包括支援センターの協力で、個別相談にも対応できる体制にしています。新道学区社協会長の山田会長にお話しをお聞きしますと、「町内に自然にあった井戸端会議を意図的に仕掛けて、住民同士の交流の場になるようにしたい」とのこと。「もちろん冬は、“温まり場”の開設もしますよ」。



▲新道学区 “ヒンヤリ涼み処”

地域福祉活動を進める担い手の確保

修道学区社協の活動を進めていく中で、一番大きな課題が活動を支えてくれる人材です。

高齢社会になり、ますます活動を担っていただける人材が見つけにくくなっている現状もあります。そのような状況の中、白河総合支援学校東山分校が開校し、修道学区社協と学校の生徒との関わりについて話し合い、実践しています。

学校は、生徒の地域住民との関わりを通じてコミュニケーションを学ぶことを大事にし、学区社協は、若い元気のあるパワーを貸してもらえるように考えました。住民と生徒の交流の場として健康すこやか学級事業などで一緒に食事を作って食べる活動や配食サービス事業を実施しています。学区社協活動に生徒の参加で地域福祉活動を推進していく力になるように考え、実践しています。



▲修道配食サービス



◀修道すこやか学級での食事の配膳

修道学区の活動理念

「生きいきと、笑顔がむすぶ ふくしのまち
触れ合い、助け合い、支え合う人と人の絆」

修道七夕会食会で地域の方と一緒に体操



問合せ 社会福祉法人 京都市東山区社会福祉協議会

〒605-0863 京都市東山区五条通大和路東入5丁目 梅林町576-5
やすらぎ・ふれあい館内

TEL.(075)551-4849 FAX.(075)551-4858

東山区社協 検索

http://www.yasufurekan.com
E-mail : yasufurekan@yasufurekan.com

